

Japanese perch found in Awara-city, Fukui  
Prefecture

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 川崎, 隆徳, 川内, 一憲, 小鍛冶, 優, 藤井, 豊, Kawasaki, Takanori, Kawauti, Kazunori, Kokaji, Masaru, Fujii, Yutaka メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10098/10042">http://hdl.handle.net/10098/10042</a>

福井県あわら市で見つかったオヤニラミ (*Coreoperca kawamebari*)川崎隆徳<sup>1</sup>, 川内一憲<sup>2</sup>, 小鍛冶優<sup>3</sup>, 藤井 豊<sup>4§</sup><sup>4</sup>医学科生命情報医科学講座分子生命化学領域

## Japanese Perch Found in Awara-city, Fukui Prefecture

KAWASAKI, Takanori<sup>1</sup>, KAWAUTI, Kazunori<sup>2</sup>, KOKAJI, Masaru<sup>3</sup> and FUJII, Yutaka<sup>4§</sup><sup>4</sup>*Department of Molecular Biology and Chemistry, Unit of Biochemistry and Bioinformative Sciences,  
Faculty of Medical Sciences, University of Fukui*

## Abstract:

Japanese perch, listed as endangered IB(EN) by Ministry of the Environment, was found for the first time as a domestic invasive species in Kumasaka River, in the Sasaoka district of Awara city, Fukui Prefecture, in June 2016.

**Key Words:** Japanese perch, endangered IB(EN), domestic invasive species, Kumasaka River, Awara city, Fukui Prefecture

## 要旨:

環境省絶滅危惧 IB (EN) オヤニラミが 2016 年 6 月、福井県あわら市笹岡地区を流れる熊坂川で国内移入種として初めて見つかった。

キーワード: オヤニラミ, 環境省絶滅危惧 IB (EN), 国内移入種, 熊坂川, あわら市, 福井県

# この研究は、福井大学・H28年度COC事業の助成を受けて実施した。

<sup>1</sup> ヘラクレスワールド, 〒910-0804 福井県福井市高木中央

Hercules World, Takagi-chuo, Fukui 910-0804, Japan

<sup>2</sup> 福井県両生爬虫類研究会, 〒919-0747 福井県あわら市御簾尾 7-17

Fukui Amphibians Reptiles Society, Misunoo 7-17, Awara, Fukui 919-0747, Japan

<sup>3</sup> 永平寺町志比小学校, 〒910-1214 福井県吉田郡永平寺町谷口 1-70

Shihi Elementary School, 1-70 Taniguchi, Eiheiji-cho, Fukui 910-1214

<sup>§</sup> 問合せ先, 別刷り請求先

(Received 21 November, 2016 ; accepted 16 December, 2016)

## 1. はじめに

オヤニラミ (*Coreoperca kawamebari*) は、最大全長 13 cm 前後のケツギョ科オヤニラミ属の純淡水魚で、体形は側扁し、海水魚のメバルに似ている。鰓蓋に暗色の眼状斑と後方に向く 2 本の棘がある。尾鰭の後縁は丸い。体色は明黄褐色～暗茶褐色まで、多様性が見られる。眼の後方に暗色斑が放射状に伸び、吻端から背鰭にかけての頭頂部に淡色斑がある。体側には 6～7 本程度の不明瞭な暗色の横帯が見られる。背鰭は棘状部と軟条部が連結し基底は長い。また、各鰭の軟条は暗赤色～明赤色に色付く。本来の分布（自然分布）は京都府の由良川・桂川以西の本州と四国北西部、九州北部、および朝鮮半島南部に分布する。さらに、移入によって東京都、愛知県、岐阜県、滋賀県、奈良県などに定着している。

本種は、河川中流域の比較的流れの穏やかな場所を好み、甲殻類や水生昆虫などの動物食性で気性が荒い。通常、外見だけで雌雄の区別は出来ない。しかし、繁殖期にはメスの腹部が膨らむので判別可能である。繁殖期は 5～9 月で、盛期は 5 月頃である。流木や水生植物の茎・根などに産卵する。オスは縄張りを持ちメスを誘い繁殖する。全長 10 cm 前後のメスで 500 個位の卵を産む。産卵後はオスが縄張りからメスを追出し、単独で卵や仔魚を保護する。自然分布域では生息地・生息数とも減少しているため、環境省のレッドデータでは絶滅危惧 I B (EN) に指定されている。本種の生息を脅かす要因は、河川の改修やコンクリート化・都市化などによる生息場所の消失、水質の悪化およびオオクチバスやブルーギルによる食害などである。また、観賞魚として人気が高く、捕獲・採集圧（商業目的や鑑賞目的の乱獲）も懸念される<sup>(1)~(6)</sup>。

## 2. オヤニラミの捕獲状況と保存

本種は、2016 年 5 月 9 日夕刻、あわら市笹岡の田園地帯を流れる熊坂川（九頭竜川水系竹田川支流）において福井県ではじめて捕獲された。当該河川はコンクリートで護岸され、礫底でコンクリート塊などが混じる状況であった。また、両岸には砂泥が堆積し、ヨシ・セリなどの水生植物が繁殖していた。流水は田植えの時期でもあり濁っていた。水量は比較的豊富で水の緩やかな流れがあった（図 1）。本種の捕獲・採集は



図 1 あわら市笹岡を流れる熊坂川

川幅 2～3 m ほどで、V 字型のコンクリート護岸から成っている。コンクリート護岸壁はかなり崩れて、植物に覆われているため土手のように見える。調査は写真に写る 20 m の狭い範囲で行われた。



図 2 福井県ではじめて捕獲されたオヤニラミ

福井県にはもともと生息していないため国内移入種となる。鰓蓋の暗色眼状斑が鮮明に認められることから本種と同定できる。

タモ網を使って行われ、合計 14 匹（雌雄不明、全長：最少=42 mm～最大=80 mm）を捕獲した。その他の魚類ではコイ・カワムツ・シマヨシノボリ・ドンコが捕獲された。また、水生昆虫やヨコエビ類・ウシガエルの幼生も確認した。

捕獲したすべての個体を持ち帰り、図鑑等を参照しオヤニラミと同定した（図 2）。その後、最小と最大の 2 個体をエタノールで固定し、保存している。

## 3. 生息状況の推測

今回の調査は、両岸の植物の良く茂った場所を中心に約 20 m の範囲を 30 分で終了した。極限られた狭い範囲を短時間で搜索した割には、14 匹と比較的多くの個体が捕獲された。また、全長 40 mm 前後の孵化後 1

年魚と、全長 80 mm 前後の孵化後 2 年魚が同所で捕獲されている。以上のことから、本種の生息密度は比較的高く、同所で繁殖が行われているものと推察される。

#### 4. おわりに

本県に於いてオヤニラミは国内移入魚であり、本来は福井県内に分布・生息していない種である。また、今回、生息を確認した場所は、九頭竜川水系、竹田川の支流・熊坂川といった大きな環境下の一部である。現在の福井県内分布状況や生息状況は不明で、今後も注視していく必要があると考えている。

#### 参考文献

- (1) 藤田朝彦, オヤニラミ. 細谷和海 (編・監修), 山溪ハンディ図鑑 15・日本の淡水魚. 山と溪谷社, 322-323, 2015.
- (2) 細谷和海, オヤニラミ. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編集), レッドデータブック 2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-, 4 汽水・淡水魚類(初版第 1 刷). 株式会社ぎょうせい, 218-219, 2015.
- (3) 波戸岡清峰, オヤニラミ. 中坊徹次 (編者), 日本産・魚類検索・全種の同定(第 3 版). 東海大学出版会, 747, 2013.
- (4) 香田康年・渡辺宗孝, オヤニラミ. 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海 (編・監修), 改訂版 山溪カラー名鑑・日本の淡水魚. 山と溪谷社, 478 & 486-489, 2005.
- (5) 斉藤憲治, オヤニラミ. 草柳佳昭・本間二郎 (編集), くらべてわかる淡水魚・識別ポイントで見分ける. 山と溪谷社, 113-115, 2015.

